

平成12年度

コア科目

総合科目 総合コース

「心と体」(00前-I)



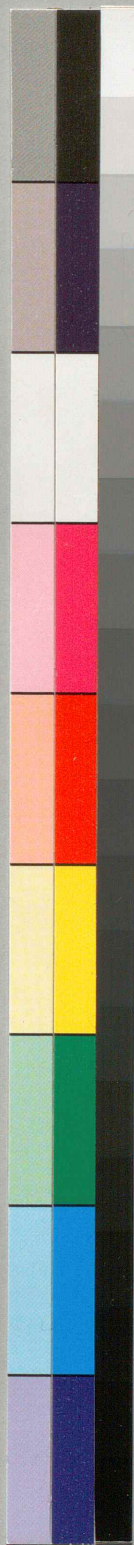
「アジアのなかの日本」(00前-II)

お茶の水女子大学

12.3.31



「心と体」(〇〇前-1)





## 総合コース

「心と体」(00前-I) 水曜日 5・6時限

総合コースは、共通な一つの主題について、研究分野の異なる複数の教官が講義するもので、総合的な視野から学ぶものである。

### テーマの概要

大学生活4年間は、さまざまな「冒険」に満ちている。これらを乗り越え、自分の生き方を確立し、それを支える確かな知識・技術を身につけていくことが、そこでの課題である。この課題解決のためにも、その基盤となる「心と体」の問題は大事である。実りある大学生活を送るための手掛かりを与えるものとして開講された。

対象学年 : 1年～4年

履修単位数 : 2単位。(前期)

※1 前期2単位。

※2 既に同テーマ「心と体」を履修した学生は、単位修得が認められない。

※ 複数の講義を履修した場合、卒業までに合計8単位認められる。

セミナー : 講義担当講師との質疑応答を中心とした「セミナー」を行う。履修する学生は、必ず出席すること。

◆ 7月12日(水)

図書館活動 : 学生の自主的行動日として、「図書館活動日(7月26日)」(巻末参照を設定している。

試験方法 : 試験はレポートにより行う。

課題は二題 — (A) テーマを通じての課題。 (B) 個別課題。

(詳細については、別途指示する。)

◆ 出題日 7月12日(水)

学生は、指示に従ってレポートを作成し、この巻末の表紙を添付の上、締切り日までに学務課教務係へ提出すること。

◆ 締切日 9月22日(金) 17時

参考文献 : 参考文献には、なるべく附属図書館にあるもの、あるいは入手可能なものをあげた。



# 平成12年度

## 「心と体」(00前-I) 講義日程

開講日時：水曜日5・6時限 13:20~14:50 (共通講義棟2号館201室)

月	日	講義テーマ 担当講師	月	日	講義テーマ 担当講師
4	19	人間発達の可塑性 -虐待や早期教育の事例から- (人間文化研究科) 内田 伸子 教授	6	21	スポーツの中でのこころとからだ (文教育学部) 杉山 進 助教授
	26	医学と食品 (保健管理センター) 永川 祐三 教授		28	心のトラブル (生活科学部) 伊藤 亜矢子 講師
5	10	脳と高次機能障害 中野 光子 非常勤講師	7	5	機能性食品 荒井 綜一 非常勤講師
	17	心と体 - 心臓学アプローチ 末松 弘行 非常勤講師		12	セミナー
	24	心に反応する身体-運動とスポーツが体に与える可能性- (文教育学部) 水村 真由美 講師		19	予備日
	31	人類進化と心 (生活科学部) 富田 守 教授		26	図書館活動
6	7	食生活と環境 (生活環境研究センター) 近藤 和雄 教授			
	14	恋愛・結婚・出産を巡る女性の心理的 発達課題とその病理について (生活科学部) 青木 紀久代 助教授			



## 人間発達の可塑性 —虐待や早期教育の事例から—

内 田 伸 子

現代の子どもはきわめてストレスの高い状況におかれている。子どもの自律性を阻む過保護の親、偏差値主義教育の偏った価値観に制約を受け、幼児初期から通信教育や塾に入れ、文字や数の訓練を開始する親がいる。その一方で親自身も孤立し、閉鎖的な環境の中で強度のストレスを感じている。家族の中で一番弱い存在である乳幼児にストレスのはけ口を求め、虐待に走る。ついには子どもを死なせてしまう場合すらある。一方は子どもを猫可愛がりし、他方は子どもは憎む。現象的には逆のようだけれど、どちらも子どもの心身の発達を阻害し、「魂の殺人」を犯すという点では同じである。

このような歪んだ環境の中で心身ともに深く傷つきながらも、見事に立ち直り、発達を遂げていく子ども。講義者がかかわったいくつかの事例を取り上げ、大人による適切な援助や教育の力によって、子どもが発達初期に受けた虐待や早期教育の被害を克服し、立ち直っていく姿を示すことにより、人間の発達がいかに可塑性に富んでいるかについて明らかにする。さらに、子どもの心身が発達するためには、どのような条件が不可欠であるかについて考察を進める。

### 〔参考文献〕

- アリス・ミラー、山下公子訳「魂の殺人—親は子どもに何をしたか」新曜社（1983）  
藤永保・斎賀久敬・春日喬・内田伸子「人間発達と初期環境—初期環境の貧困に基づく発達遅滞児の長期追跡研究—」有斐閣（1987）  
内田伸子「発達心理学—ことばの獲得と教育—」岩波書店（1999）



## 医学と食品

永 川 祐 三

人は生まれて、生きて、死にます。生きている間だけは、快適に生きたいというのが私達の念願ですが、その快適な生き方をこわすもの、それが病気です。病んで健康の有難さがわかります。今日、健康の維持・増進と長寿の達成のために、医学と食品の果たす役割は日増しに大きくなってきています。

食品は健康の維持・増進、病気の予防・治療に寄与するなど私たちにとって好ましい機能がある一方、好ましくない機能を示す場合があります。すなわち食品アレルギーの原因になり、また、癌の発生あるいは抑制にも、食品の影響が大きく、機能しているようなのです。

一方、医学、すなわち医学知識や医療技能は目覚しく進歩してきており、生命科学は高度に進展してきています。しかし、高齢化社会においては、なにもかも医師にまかせて解決してもらうという治療第一主義の考え方では、もはや対応できず、生きていくことが困難となってきており、医学・医療がこれまでに経験したことがない転換期に入ってきています。一人ひとりが生命とはなにかと考え、生きていかなければなりません。すなわち、高度に発達した情報化社会の中で生活し、豊富な医学知識を持ち、自己の病状を自ら判断し、自己の生涯設計の中に治療方針を組み込むことが一人ひとりに求められてきています。

そこで、本講義では、現代医学が科学技術とともに進歩したが、地球環境も破壊されつつある現代社会において、病気、食品、機能性成分の3つの視座からトライアングルに今日の医療と健康を見直してみたいと思います。

### 〔参考文献〕

永川祐三『抗がん食品辞典 医者がすすめる55種』主婦と生活社（1999）

永川祐三『病気を治す栄養成分book』主婦と生活社（1999）

永川祐三他著『薬と食べ物飲み合わせ辞典』主婦と生活社（1998）



## 脳と高次機能障害

中 野 光 子

私達が物を見たり、聞いたり、考えたり、話をしたり、喜んだり、悲しんだりする事等を精神活動とか心の働きと言いますが、それらのすべては脳の活動によって生み出されています。即ち心理学が研究対象としている全ての行動を生み出しているのは脳なのです。

脳の機能の中で主にヒトのみに与えられている言語、思考、認知、記憶、構成能力など高度な知的能力を高次機能と言います。また脳の病巣部位と症状とを関連づけて研究し、脳機能の解明を目指す研究分野を神経心理学と言います。神経心理学には動物実験を主とした基礎的な研究と、臨床的な研究とがありますが、高次機能の殆どはヒトのみしか持っていない機能なので、実験的な研究は不可能に近く、臨床的な研究が主体となります。臨床的研究では、脳の病気になった人や脳の手術を受けた人が後遺症としてどのような障害を残すかを、病巣部分と関連性づけて研究します。代表的な高次機能障害に失語、失行、失認、失読、失書、記憶障害などがあります。

高次機能の解明には、ある特定の高次機能のみが損傷され、その他の機能が無傷に保たれている患者さん（純粋例と言う）を出来る限り客観的かつ正確に観察し、第三者にわかりやすい方法で表現し、病巣部位がどこにあるのか、またその特性はといった医学的見解と突き合わせて検討する症例研究の積み重ねが大切なのです。

本講では、講師が経験した純粋例を提示しながら、代表的な高次機能障害とはどういうものであるかを学びます。わが国では、この分野は欧米に比較して30年遅れていると言われており、現在も医学のほぼ独占分野となっていますが、実は心理学と医学の境界領域にあり、医学者と心理学者が協力することによって質の高い研究が期待出来るのです。

### 〔参考文献〕

中野光子著「臨床 知能診断法」山王出版

山鳥 重著「神経心理学入門」医学書院



## 心と体 —心身医学的アプローチ—

末 松 弘 行

心身医学とは心と体の関係を研究して、その結果を多くの病気の診断と治療に活用しようとする学問である。

心身医学が主要な対象とする病態が心身症である。心身症とは、体の病状を訴えているが、それが心の問題のためにおこっていたり、なかなか治りにくくなっているのが心の要因のせいであったりするケースのことをいう。たとえば、職場でのストレスのために胃潰瘍になったり、家庭内の悩みのために、血圧がなかなか落ち着かない人がいる。現代のストレスに満ちあふれた生活の中では、心の問題が体の病に影響することが多く、「心身症の時代」といわれている。

そこで、心身症とは何かをくわしく解説し、ことに女性の心身症について、揺りかごから老年期までライフサイクルにそった観点から「女の一生」ということで話す。

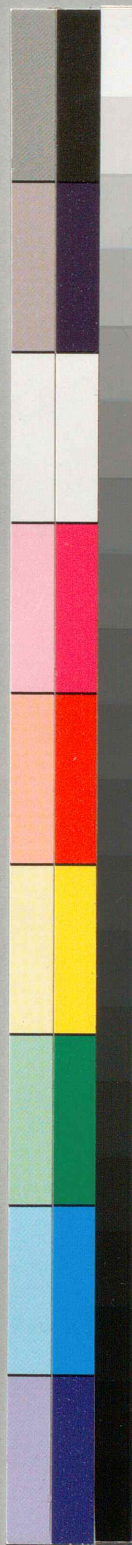
そして、このストレス社会を生き抜くための心身医学的な対応法についても触れて、心と体の相関関係について考える。

### 〔参考文献〕

末松弘行 監修、野村 忍 編『心療内科入門』 金子書房(1993 年)

末松弘行 他 編『心身医学を学ぶ人のために』 医学書院(1996 年)

池見酉次郎 著『心療内科』 中央口論社(1963 年)





## 心に反応する身体

—運動とスポーツが体に与える可能性—

水 村 真由美

私たちの「身体」は、常に、「心」の影響を受けている。例えば、好きな人と初めて二人っきりで話しをする時、心臓がドキドキし、顔が紅潮した経験を持つ人は多いであろう。これは、好きな人を前にした興奮状態によって、交感神経活動が高進し、心拍数の増加や血圧の増加が生じた状態である。また、仕事上のさまざまなストレスによって、胃が痛くなったり、時には胃かいようなどの疾病を生じることも珍しくない。これは、心の状態が悪化した結果、健康を損ねる、いわゆる病気になる状態まで、身体が影響を受けた場合である。一方、心の状態が、身体が行う「行動」に影響を与えることもある。不安定な精神状態が原因で、過食と拒食を繰り返す摂食障害も、その一例である。

では逆に、身体から心への働きかけの可能性は考えられないだろうか？例えば、精神的に落ち込んでいる時、運動やスポーツを行って、気分がすっきりする経験をしたことがある人は少なくないであろう。つまり、運動を行って身体の状態を変えることは、悪化した心の状態を変える可能性をもつのである。運動やスポーツを行うことが、薬以上の効果をもつことは、さまざまな研究報告から実証されている。例えば、更年期障害に伴うさまざまな不定愁訴が、投薬によって全く改善されなかったのに、運動を定期的に行うことで改善されたという報告は数多くみられる。

本講義は、「心」の状態の変化によって「身体」あるいは「行動」がどのような影響を受けるか、また運動やスポーツといった「身体からの働きかけ」によって、心の状態が変化する可能性を中心に概説する。

### 〔参考文献〕

「女性のライフステージからみた身体運動と健康」宮下充正監修、杏林書院

「脳と心を考える」伊藤正男著、紀伊国屋書店

「脳と情動」堀哲朗著、共立出版



# 人類進化と心

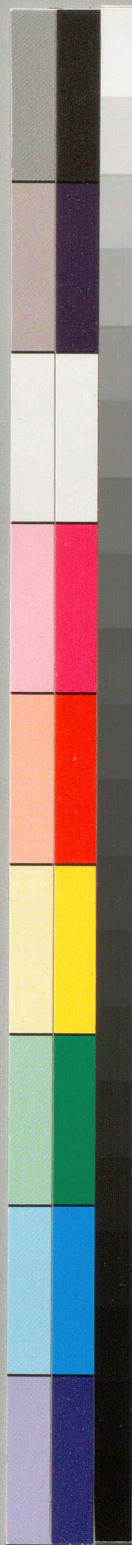
富 田 守

約500万年の人類進化史において、我々におなじみの「心」はどうして、また、どのようにして現れ、また発達してきたのだろうか？

これは大変むずかしい問題であり、解明されていない問題であるが、現在我々がもっているデータから少し推論してみよう。

## 〔参考文献〕

- R. ルーウィン著、保志他訳「人類の起源と進化」てらぺいあ（1993）
- R. ソレッキ著、香原他訳「シャニーダール洞窟の謎」倉樹書房（1977）
- M. ポラニー著、佐藤訳「暗黙知の次元」紀伊国屋書店（1980）





## 食生活と健康

近 藤 和 雄

人類にとって長らく飢餓の時代が長かったために、我々はともすると栄養不足に眼を向けがちである。しかし、多くの先進諸国では、栄養不足の時代から一気に飽食がもたらす高脂血症、肥満、糖尿病などの健康障害が問題となっている。

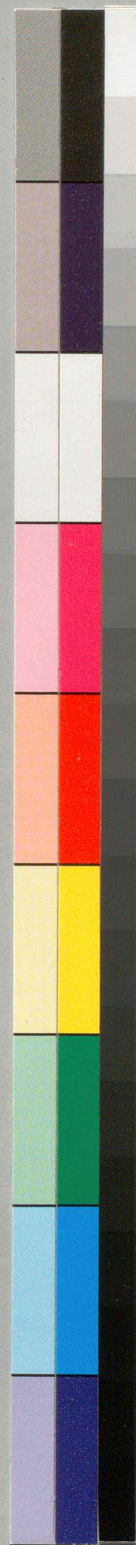
一方、大気中に存在する人類をはじめとした生物は、酸素の恩恵に欲するとともに、紫外線などを主体とする放射線と酸素の驚異にさらされている。

そこで、本講義では、過去から現代に至る食環境を考えながら、食環境がもたらす健康についてまとめる。

### 〔参考文献〕

近藤和雄『からだに効く赤ワインの条件』 講談社  $\alpha$ 文庫（1998年）

近藤和雄『第三の栄養学』 ごま書房





## 恋愛・結婚・出産を巡る女性の心理的発達課題とその病理について

青 木 紀久代

おそらく講義を聴講される学生さんたちは、これからの10年間の間に、女性のライフイベントのいくつかを体験されることでしょう。すでに恋愛中の皆さんもいるでしょうし、結婚したり、妊娠している、ということもあるかもしれません。

いずれにせよ、そう遠からぬ未来に備えて、これからどのような心理的発達課題というものが求められるのか、ちょっときまじめに考えてみたいと思います。

特に、晩婚化と小子化の問題と女性の心理的発達課題の関係について、いくつかの事例をもとにお話します。

そして、これから先、自分の身に絶対に起こらないとは言えない、この時期に関連する精神的問題を取り上げて、概説することとします。

主に取り上げる話題は以下のものです。

1. 妊娠中の精神障害
2. 産後の精神障害
3. 中絶の心理的影響

### 〔参考文献〕

V. パート・V. ヘンドリック著 「女性のためのメンタルヘルス」 (日本評論社)  
青木紀久代・神宮英夫編著「子供を持たないころ」 (北大路書房)



## スポーツの中でのところとからだ

杉 山 進

スポーツは現代社会において不可欠の文化になってきたといわれる。そこには行うスポーツだけでなく、みるスポーツという側面もあるが、ここでは実践する者の立場から、運動やスポーツの最中のところとからだのあり方を問題にする。

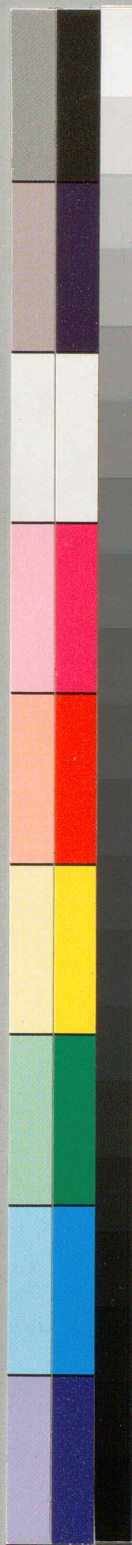
初心者には、自分のからだは意のままにならない障害物と感じられるが、熟練してくるにつれて自身が身体的存在であることも忘れてしまうような状況に気づくことがある。また名人に至っては所謂心身一如の意地が語られたりする。このように、実践場面でのからの現象は多様であり、またかかる考え方は文化的な背景をもち、日本の伝統的な芸能や武道の中に今も生きている。

勝敗や健康・体力といった側面以外のスポーツのもつ意義や意味について考えてみたい。

### 〔参考文献〕

講談社学術文庫（1992年）市川浩著『精神としての身体』

東大出版会．認知科学選書14．（1990）生田久美子著『「わざ」から知る』





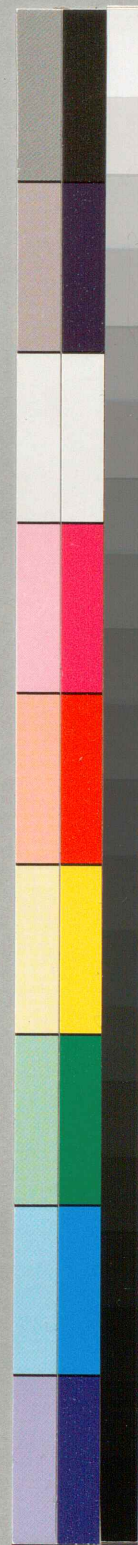
## 心のトラブルとその対応

伊 藤 亜矢子

赤ん坊から子どもへ、子どもから青年へ。そして中年・老人へと、人はそれぞれの人生段階でさまざまな変化を経験する。変化は成長の契機であると同時に危機である。思いがけない変化に「心」が追いついていけず、「心のトラブル」を生じることもある。その意味で「心のトラブル」を体験する可能性が誰にでもあると言えよう。そうした「心のトラブル」をどう捉えたら良いのか。またそれにどのように対処したら良いのか。例えば身近な人の「心のトラブル」に、友人として家族としてどう対応したら良いのだろうか。上手な相談機関の利用方法や臨床心理士の活動、セルフヘルプグループやカウンセリングの意味など、心理臨床サービスの受け手として知っておくべき事柄は多い。そうした知識を持つことは、「トラブル」に上手に対応し、危機を成長の契機としていく一助となろう。講義では、「心のトラブル」やその対応について臨床心理学の立場から検討し、「心のトラブル」について理解を深め、非専門家としてできるトラブルへの対応や援助について。知識を得ることを目標としたい。

### 〔参考文献〕

- 小倉清『こころのせかい「私」はだれ?』彩古書房  
河合隼雄『カウンセリングを語る上下』創元社  
こころの科学増刊号『臨床心理士』日本評論社





## 機能性食品

荒井 綜 一

食品には栄養面での働き（一次機能）と嗜好面での働き（二次機能）の他に病気予防面での働き（三次機能）がある。そして、三次機能が効率よく発現するように設計された新食品を機能性食品（functional food）という。これは「日常の食生活のなかで摂取することによって病気のリスクを軽減させる食品」と定義される。いろいろの病気のリスクを軽減させるさまざまな機能性食品が開発されているが、その中から厚生省が法的に認可したものをとくに特定保健用食品という。血圧の上昇を抑制する食品、コレステロールを低減させる食品、アレルギーを予防する食品などがその例である。

約15年前、日本（文部省研究班）が世界へ発信した三次機能と機能性食品のコンセプトは英国の有名な科学誌「ネイチャー」（1993）に紹介され、各国に強いインパクトを与えた。最近では、従来の食品学や栄養学の枠を超えた新しい科学 functional food science が国際的に展開されるようになった。学問体系でみると、従来の科学が糖質、資質、蛋白質、ミネラル、ビタミンといった成分体系であるのに対し、この新科学は予防すべき病気や抑止すべき生体異常を対象にしており、例えば癌、老化、感染症、免疫異常（アレルギーなど）、内分泌障害（骨粗鬆症など）、循環器疾患（高血圧症など）、消化器疾患（便秘など）、行動・心理障害（不眠、味覚異常など）を体系の基盤とする食品学なのである。

機能性食品科学に関する最新の内外の状況をプリントとスライドで具体的に紹介し、正しい食生活設計に少しでも役立てていただきたい。

### 〔参考文献〕

荒井綜一監修「機能性食品の研究」

（文部省重点領域研究成果報告集）、学会出版センター（1995）

荒井綜一ほか「学術の動向」

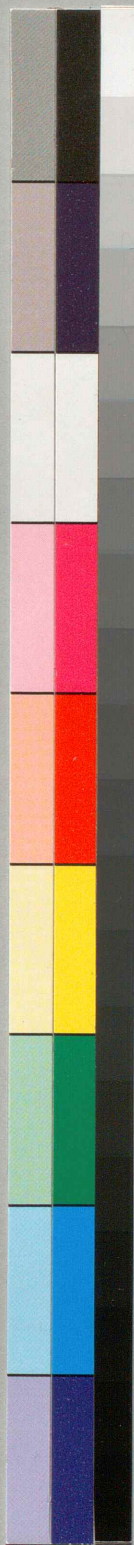
（日本学術会議編集誌）、32（11）、10-36（1998）

1980

1/2, 4, 1 ~ 4, 3, 1999  
1, 1997



「アジアのなかの日本」 (〇〇前-II)





## 総 合 コ ー ス

「アジアのなかの日本」(00前-II) 水曜日 7・8時限

総合コースは、共通な一つの主題について、研究分野の異なる複数の教官が講義するもので、総合的な視野から学ぶものである。

### テーマの概要

本コースは、96年度後期に開講した「アジアから考える」の続編にあたる。前回は、アジアの多様な姿から日本の位置を考えることに主眼をおいた。受講者から「アジアの魅力を知った」「日本はアジアの一員であることを発見した」という声があった。

今回は、日本とアジアの政治的・経済的・文化的交流に焦点をあてる。日本の基層文化におけるアジアとの影響関係と、近代日本におけるアジアと日本の対抗・対立を含む関係を柱に構成されている。

対象学年 : 1年～4年

履修単位数 : 2単位。(前期)

※ 前期2単位。

※ 複数の講義を履修した場合、卒業までに合計8単位認められる。

セミナー : 講義担当講師との質疑応答を中心とした「セミナー」を行う。履修する学生は、必ず出席すること。

◆ 7月12日(水)

図書館活動 : 学生の自主的行動日として、「図書館活動日(7月26日)」(巻末参照を設定している。

試験方法 : 試験はレポートにより行う。

課題は二題 — (A) テーマを通じての課題。 (B) 個別課題。

(詳細については、別途指示する。)

◆ 出題日 7月12日(水)

学生は、指示に従ってレポートを作成し、この巻末の表紙を添付の上、締切り日までに学務課教務係へ提出すること。

◆ 締切日 9月22日(金) 17時

参考文献 : 参考文献には、なるべく附属図書館にあるもの、あるいは入手可能なものをあげた。



平成 1 2 年度

「アジアのなかの日本」 (00前-II) 講義日程

開講日時：水曜日 5・6時限 15:00~16:30 (共通講義棟2号館201室)

月	日	講 義 テ ー マ 担 当 講 師	月	日	講 義 テ ー マ 担 当 講 師
4	19	近代日本とオリエンタリズム 姜 尚中 非常勤講師	6	21	パプアニューギニアから見た日本 (文教育学部) 熊谷 圭知 助教授
	26	中国語の歴史と漢字 (文教育学部) 和田 英信 助教授		28	日・中の知識人の「占領」体験 (文教育学部) 宮尾 正樹 教授
5	10	我が国に及んだ仏教美術 (文教育学部) 秋山 光文 教授	7	5	植民地支配と日の丸・君が代 駒込 武 非常勤講師
	17	横浜と上海 (文教育学部) 小風 秀雅 教授		12	セ ミ ナ ー
	24	日本とトルコの近代化 小松 香織 非常勤講師		19	予備日
	31	明治女性文学にみる国民化 (文教育学部) 菅 聡子 助教授		26	図 書 館 活 動
6	7	大東亜民俗学と日本地政学 (文教育学部) 内田 忠賢 助教授			
	14	見える「音楽」・見えない「ふし」 (文教育学部) 永原 恵三 助教授			



## 近代日本とオリエンタリズム

姜  
(KANG)

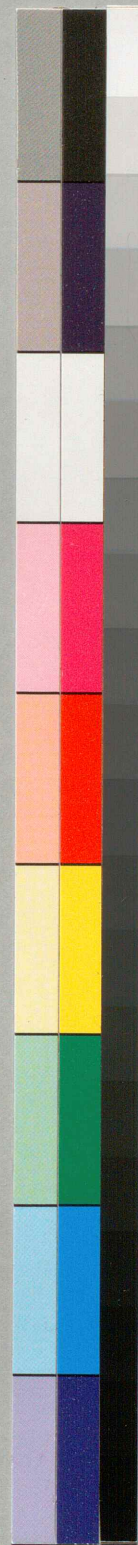
尚 中  
Sang jung)

日本は「アジア」か。そう問われれば、みなさんはどう答えるでしょうか。きっといろいろな解答があるかも知れません。その場合、一体「アジア」とはどこからどこを指すのでしょうか。一体「アジア」とは地理的な概念なののでしょうか。それとも文化的なカテゴリーなののでしょうか。また「アジア」にはまとまったアイデンティティというものが存在するのでしょうか。

こうしたいささか混乱した問いにどう答えたらいいのでしょうか。講義では、そうしたことを念頭にそもそも「日本国民」は、「アジア」というものをどのように認識してきたか、そのイメージや表象もふくめて考え直してみたいと思います。それはまた同時に日本の国民のアイデンティティ、その自己認識のあり方を問い直してみる作業にもつながっていくと思います。

具体的には、日本が「アジア」と「西洋」の間の分裂を一気に克服しようとした「十五年戦争」期のはじまりに出された平凡社の『(世界)大百科事典』の「対外意識」をたどりながら、上のような問題を解く手がかりを考えてみましょう。

「世界大百科」は「国民百科」と不即不離の関係にあり、この意味で「世界百科」の世界のイメージや表象は、国民という主体の「世界認識」を雄弁に物語っています。ここに『大百科事典』の今日的な意味があります。そのなかの「アジア」と「西洋」に関する記述、その不均等な言説の配分やコントラストなどは、いまでもそっくりそのまま生きているからです。講義では、「オリエンタリズム」(それが何を意味するかについては冒頭に説明します。)を切り口にして、この一世紀の日本の「アジア」と「西洋」について語ってみたいと思います。





## 中国語の歴史と漢字

和田 英 信

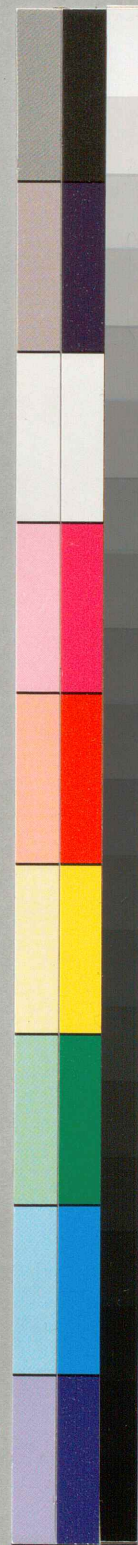
現代のわたしたちの生活においても、漢字のしめる位置は決して小さくはないのですが、言うまでもなく漢字は、もともと中国語（漢語）を表記する文字として生まれ、発展してきたのです。その中国語のなかで、漢字はどのような役割を担ってきたのでしょうか。わたしたちは過去の文化のありようを、おおくは文字によって書き記された文献によって探求しています。そして日本も含めてこの東アジア地域においては、そうした文献の多くは漢字によって記されているのです。

この講義では、中国語の歴史と漢字との関連を紹介し、それを通じて中国語と日本語における漢字のあり方を考える契機としたいと思います。異なる時間、異なる地域のことばをダイナミックにつなぐ漢字の魅力の一端に触れることができれば幸いです。

### 〔参考文献〕

阿辻哲次『図説 漢字の歴史（普及版）』（1989年 東京 大修館書店）

河野六郎『文字論』（1994年 東京 三省堂）





## 我が国に及んだ仏教美術

秋 山 光 文

我が国に仏教が伝えられたのは後6世紀中葉、欽明天皇の時代であったといわれる。ではその時もたらされた仏教美術とは、一体どのようなものであったのだろうか？さらに、現在法隆寺金堂に残る釈迦三尊像をはじめ、我が国の仏教美術の劈頭を飾る作例は、何を手本として制作されたのであろうか？

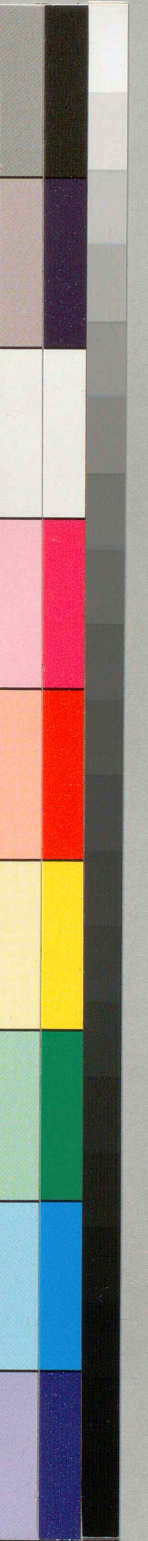
仏教文化は古代インドに興り、その後ヒンドークシュ山脈を超え陸路中央アジアを経て中国に至り、さらに朝鮮半島を通して我が国に伝えられた。この壮大な文化の伝播の過程で、我が国に伝えられた仏教美術は、いつ頃どこで行われていたどのような様式に基づいているのだろうか？

こうした観点に立って、我が国仏教美術の初期相をたどるには、同じ時代にアジアの他の地域で、どのような仏像が制作され仏画が描かれているかを理解する必要性が生じてくる。

この講義では、我が国に請来された異文化としての仏教美術が受容され、変容を遂げながら独自の様式を形成してゆくプロセスを、現存する作例を通じて明らかにし、アジアの中における日本仏教美術を考える。

### 〔参考文献〕

- |        |             |            |
|--------|-------------|------------|
| 山本智教   | 『仏教美術の源流』   | 1981, 東京美術 |
| 西川杏太郎編 | 『仏教美術入門』全6巻 | 1984, 平凡社  |
| 町田甲一   | 『南無仏陀』      | 1987, 保育社  |





## 横浜と上海

小 風 秀 雅

〔姉妹都市としての横浜と上海〕

横浜と上海は実際に姉妹都市としての関係を結んでいるが、歴史的に見ても、その名にふさわしい関係を有してきた。

横浜と上海は、香港とともに東アジアを代表する港湾都市であると同時に、近代世界史のなかでは、東洋が西洋に向けて開いた文化的、社会的窓口として重要な役割を果たした都市である。

この二都市は、ともに、中国・日本が欧米との間に締結した不平等条約によって開港された開港場であり、都市としての歴史は新しく、アジア的都市社会の伝統を有しないという点で、極めて似通った都市である。また、イギリス・フランス・アメリカを中心とした欧米列強のアジア進出の足場としての経済的インフラ機能（金融・開運・情報）が集中する、経済都市としても共通点が多いのである。

〔比較と関係の視点〕

この両都市を比較すること、および両都市の関係を明らかにすることによって、アジアが19世紀の世界経済のなかにどのように包摂されていったのか、そのあり方が具体的に浮かび上がってくるであろう。

アジアにおける近代を考える場合、欧米との関係を考えることと同時に、アジア域内における伝統的関係の変質と新たな関係の形成についても考察していく必要がある。そうした問題関心から、近代世界システムに東アジアが組み込まれていく歴史的有り様を、2つの国際都市を比較することで明らかにしていきたい。換言すれば、近代世界史のなかにおける日本と中国の占める位置の比較検討、さらに日中関係の特質を、両都市の関係を論ずるなかから炙りだしていくことがこの講義の目標である。



## 日本とトルコの近代化

小 松 香 織

オスマン帝国は1839年ギュルハネ勅令を發布し、国家の近代化をめざして大きな改革を行うことを内外に宣言した。いわゆるタンズィマート時代の幕開けである。この時期、政治、経済、文化等あらゆる領域で「西欧的なもの」の摂取が本格化する。それは、わが国においてちょうど幕末から明治にかけてみられた現像に近いものであるが、時代的にはオスマン帝国の方がおよそ30年先行していたことになる。ところが結果的には、西欧との距離という点において、19世紀末までにはトルコは日本に追い越されてしまった。以来、日本はトルコにとって近代化の手本となる。特に日露戦争直後には知識人たちの間で日本への関心が高まり、何冊もの本が出版された。こうした文献からは、彼らが「非西欧国家の近代化」のあるべき姿を日本の中に見出していたことが見て取れる。一方、日本人の中からもわずかながらトルコの人々と接する機会を得る者が出てくる。その際に「西欧と対峙するもの」としての連帯感が生まれることもあった。しかし、西欧文明のうけとめ方は、両者の歴史的、文化的背景によって異なったものとならざるをえなかった。西欧の衝撃による伝統社会の変容についてはこれまでもいろいろな検討がなされてきたが日本とトルコの経験の比較もまた興味深いテーマの一つと言えるのではないだろうか。

### 〔参考文献〕

- メテ・トゥンジョク『トルコと日本の近代化』 サイマル出版会  
池井優・坂本勉編『近代日本とトルコ世界』 勁草書房  
アブデュルレシト・イブラヒム『ジャポonya』 第三書館



## 明治女性文学にみる国民化

菅 聡 子

フェミニズム批判が直面するもっとも今日的な問題の一つに、女性における〈国民化〉の問題がある。戦争責任ならびに従軍慰安婦問題等について、女性がどのような立場から発言しうるのか、その模索のためにも、まず女性の〈国民化〉がどのようなシステムの上で成されていったかを追跡する必要がある。

現在、女性の〈国民化〉をめぐって、その言説がもっとも考察されているのは明治44年創刊の雑誌「青鞥」の人々である。平塚らいてうを初めとする時代の先端を行くフェミニストたちが、一方でどのように〈国民化〉プログラムの中に取り込まれていったのかを考察することは、女性の社会進出等の周囲にある陥穽を考える上で重要な問題提起をしてくれる。

これに比して、明治の女性作家をめぐっては同様の考察はほとんど成されていない。しかしながら、日本の近代国家プログラムが明治期にスタートしていることを考えれば、「青鞥」の女性たちの一つ上の世代の彼女たちの中に、どのような〈国民意識〉が胚胎していたかを探る必要がある。よって、本講義においては、樋口一葉を初めとする明治二十年代の女性作家たちの中に見られる〈国民意識〉の追跡を行う。日記・書簡・小説における言説を対象として、日清・日露戦争についてどのようなスタンスをとっているか、あるいはどのような新聞記事に関心を示しているかなどを追跡し、明治の女性作家の〈国民意識〉を前景化したい。

### 〔参考文献〕

大越愛子『近代日本のジェンダー』 1997, 三一書房

上野千鶴子『ナショナリズムとジェンダー』 1998, 青土社



## 大東亜民俗学と日本地政学

内田忠賢（人間文化研究科／地理学）

第二次世界大戦の直前や戦中には、好むと好まざるとにかかわらず、諸学問は戦時体制化に組み込まれた。地域や空間を相手にし、アジア世界を考える方向に向かった二つの分野、民俗学と地理学も同様の運命をたどった。どちらも、結果として、大東亜共栄圏の構想に加担したのは事実のようである。しかし、戦後、関係した民俗学者たちは転向できたのに対し、関係した地理学者の多くは公職追放された。同時に、両分野とも戦後、かつての大東亜共栄圏との関係を口にすることを避けつづけたように思う。系譜の上では、比較民俗学や政治地理学のジャンルはあるが、この過去に触れることは少ない。

今はやりの、安直なポストコロニアリズムからは、できるだけ距離を置くことを心掛けながら、事実関係を中心に一緒に考えてみたい。

- 参考文献 川村 湊『“大東亜民俗学”の虚実』講談社（選書メチエ）、1996年  
栄沢幸二『“大東亜共栄圏”の思想』講談社（現代新書）、1995年  
岡田俊裕『近現代日本地理学思想史』古今書院、1992年



旅順白玉山表忠塔前の一行（8月16日）

東京女子高等師範学校（後の女子大学）巡検（見学）の記念写真

（東京女高師『大陸視察旅行所感集』昭和15年発行、より）



## 見える「音楽」・見えない「ふし」

永原 恵三

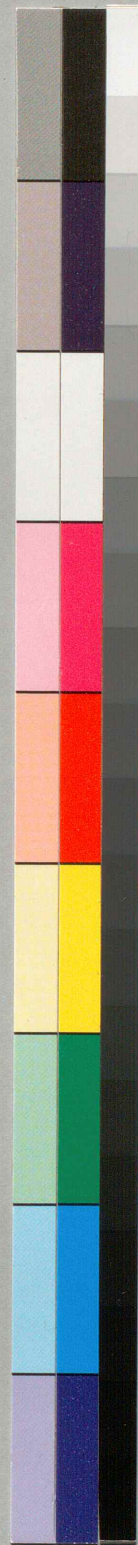
音楽における「近代化」は、まさにこのお茶の水女子大学の前身である女子高等師範学校を一つの重要な舞台にして行われた。楽譜とくに五線譜という見える道具を用いることによって、音楽もまた見える「音楽」として学校教育の対象となった。ここで生まれた学校唱歌は、西洋と日本との関係のみならず、さらに日本を通して近隣諸国と西洋との関係も導いた。つまり西洋音楽という「音楽の近代」を媒介とすることで、政治的・文化的に日本はアジアの近隣諸国との関係を結んでいた部分があるだろう。

その一方で、「近代化」とは別なところに、あるいは接して、われわれの基本的な生活に根づきながら、見えない「ふし」が存在していないだろうか、いや存在したというべき場合もあるだろう。それは常に忘却と反復とのはざまで、ある時はどこまでも執拗に、またある時は脆くその存在を呈示する。たとえば「追分節」という「うた」あるいは「ふし」があり、「江差追分」に至っている。その「ふし」を導いてきたのは、さまざまな人々の往来であり、日本と近隣諸国との多様な関係がそこに暗示されているはずである。

柴田南雄（1916－1996）の『追分節考』は、世界的に重要な音楽作品であるが、アジアの「今」を生きているわれわれに、その「位置」を考えさせるものである。この小さくも巨大な作品を通じて、音楽におけるアジア、日本そして近代を考えることとしたい。

### 〔参考文献〕

柴田南雄『日本の音を聴く』 1994, 東京 青土社





## 日・中の知識人の「占領」体験

宮 尾 正 樹

正確には「被占領」体験と言い直しておく。

今年、お茶大では1949年の新制大学としての出発以来はじめて（と思う）、卒業式と入学式で日の丸が式場に掲揚されることになった。1949年、日本は占領下にあった。

第二次世界大戦の敗戦から1952年の単独講和までの7年間は、日本の近現代史上、ただ一度現れた、日本が他国（実質的に米国）の支配下にあった時期である。この時期の日本の知識人の営みと、といっても、自分の研究領域である中国文学関係を中心とすることになると思うが、中国の作家達たちの日本軍占領下における活動を比べ、また、占領下にあつて、中国の近代文学を同時代的に受容することがいかに可能となったかを見ることを通じて、知識人の（大学生も含む）処世の態度とでもいうものを考えてみたい。

日本の文学者としては、堀田善衛、武田泰淳、竹内好など、中国の文学者としては魯迅、周作人、郁達夫などに言及する予定。参考文献の他、これらの人々の作品にも触れておいてもらえればと思う。

1949年はまた、GHQによって日の丸の全面的自由使用が認められた年でもある。現実的には、日の丸掲揚をめぐる弾圧や抵抗はほとんど見られなかった。それがあつたのは、米軍統治下の沖縄においてである。そして復帰後、日の丸がもっとも抑圧的に機能したのも沖縄である。力が及べば、話をそこにつなげていきたいと思っている。

### 〔参考文献〕

加藤典洋『敗戦後論』 1997, 講談社

田中伸尚『日の丸・君が代の戦後史』 2000, 岩波新書

堀田善衛『広場の孤独』 新潮文庫

丸山昇監修『中国現代文学珠玉選』 2000, 二元社



## 植民地支配と日の丸・君が代

駒 込 武

昨年の「国旗・国歌法」指定以来、学校教育において日の丸・君が代をどのように取り扱うのかということが大きな問題となっている。国旗を揚げ、国歌を歌うということは、どこの国でもやっていることであり、「当たり前」のことであるはず。それなのに、なぜこれほどさまざまな議論が起きているのだろうか。それぞれが賛否を決める前にまずその理由と由来を理解する必要があるだろう。その際に、日の丸・君が代にまつわるさまざまな歴史的記憶、それも他者の記憶に対する想像力が必要となってくる。

戦前期、日の丸は東京や京都で揚げられていただけではない。君が代もそうした日本の都市だけで歌われていたわけではない。ソウルやシンガポールにも日の丸は翻り、台北やパラオでも君が代は歌われていた。そのことを多くの日本人は忘却しているが、現地の人々の中にはそうした記憶と共に生き続ける人々も少なくない。そうした記憶を持つ人々は、今日、どのような思いで日の丸・君が代に接するのだろうか。

その思いを完全には理解することはできないにしても、植民地支配の歴史の中における日の丸・君が代の役割について論ずることで、そうした事態への想像力を働かせるためのきっかけとしたい。

### 〔参考文献〕

田中伸尚『日の丸・君が代の戦後史』岩波新書

岡真理『記憶／物語』岩波書店

駒込武『植民地帝国日本の文化統合』岩波書店



## パプアニューギニアから見た日本

熊谷圭知

パプアニューギニアという名を聞いて、あなたは何を思い浮かべるだろう。「未開の地」「秘境」それとも「自然」や「熱帯林」だろうか？あるいは、そうした土地に暮らす「文明に汚染されない人びと」の姿かもしれない。

しかし、私がパプアニューギニアの奥地の村を訪ね、人々と生活を共にして実感したのは、「熱帯林に囲まれた中で、自然と調和して暮らす人々」という、ロマンティックなイメージが、わたしたちの身勝手な幻想に過ぎないということだった。熱帯林の開発さえ手が届くことはない奥地に住みながら、人々は、外部の世界についての情報と、それに比べて自らの住む場所が「遅れている」という認識を持っていた。そして切実な「発展」への欲求と、それが満たされないことへの強い不満と葛藤を抱いていた。もし村人たちの前に、伐採業者が現れて、森林の伐採権を買いたいといったならば、人々は喜んで売り渡してしまうだろう。その後、自分たちの生活を支えてくれていた森が失われたことに、人々は後悔するにちがいない。それを「愚かな」ことと言うのはたやすい。しかし、地球環境のために貴重な熱帯林を守ろうという言葉は、村人たちの前では空しく響く。人々は森林を自らのローカルな生活の場としている。しかし、ニューギニアの村人は、けっしてグローバルな環境を保全するために、生きているわけではないのだ。

そこには、2つの問題が見えてくる。第一に、グローバルな空間で作用する「力」と言説が、ローカルな空間で生きる人々のリアリティと乖離しているという事実である。もうひとつの問題は、「時間」の欠落である。わたしたちは、自らとは遠く離れた（物理的にも、意識の上でも）世界に住む人々の生活を、「歴史」を欠いた、昔と「変わらぬ」世界としてイメージしがちである。しかし、現実には、「彼（女）らの世界」もすでに「われわれの世界」の一部に組み込まれている。そして、そのかかわり合いの中で変化してきたし、今も変化し続けている。

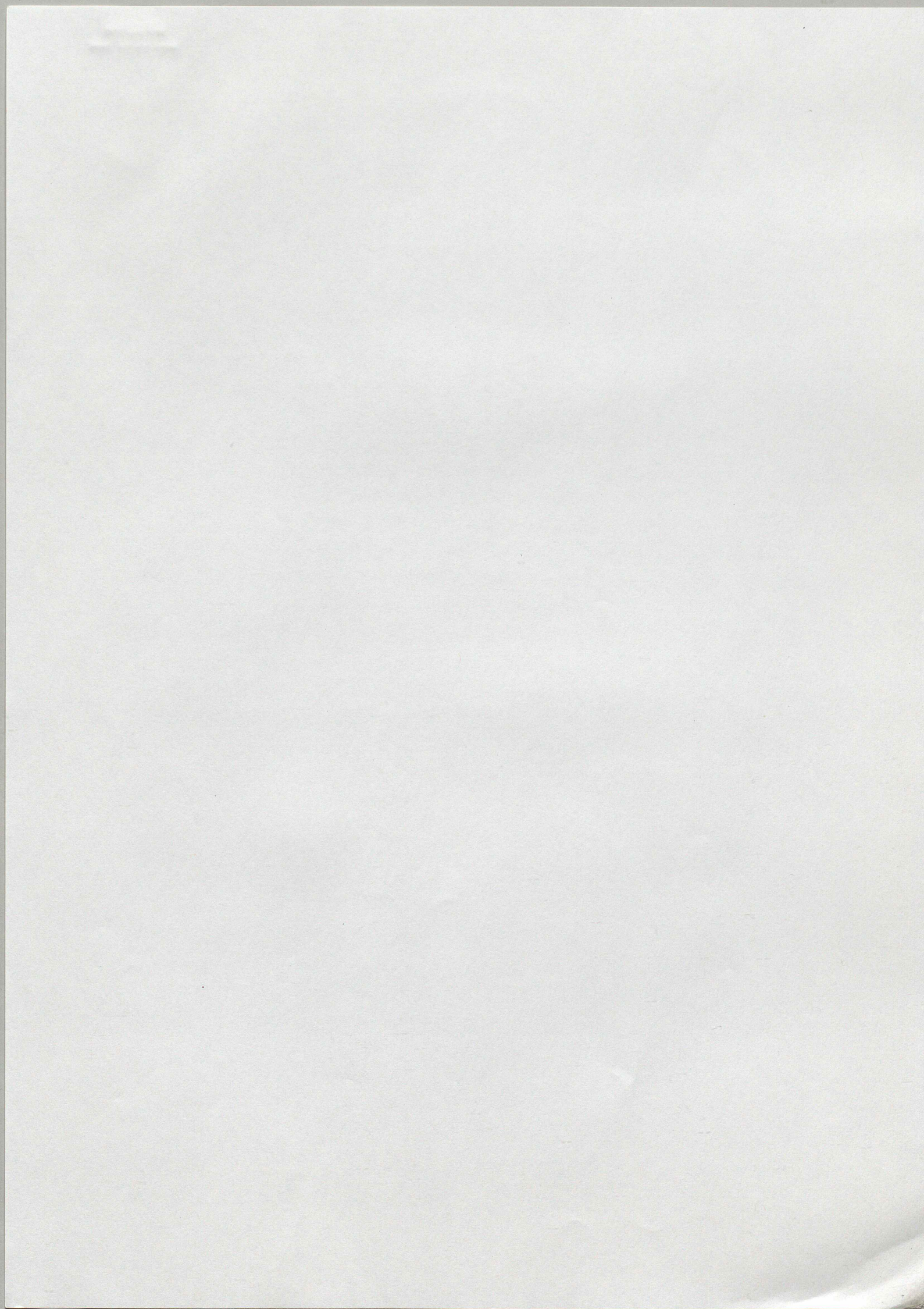
この講義では、こうした問題を考えるために、パプアニューギニアのブラックウォーター流域を取り上げる。この地域の人々は、第二次世界大戦中に日本兵との出会いを経験している。そして、そうした体験も含めて、いま人々がどのように日本をまなざしているかについて語ってみたい。

### 〔参考文献〕

熊谷圭知（印刷中）「自然との「調和」でもなく、外部の「従属」でもなく——パプアニューギニア、ブラックウォーターの人々の「歴史」と「空間」——」

熊谷圭知・西川大二郎編『ローカルからグローバルへ——地域研究者からの発信』古今書院







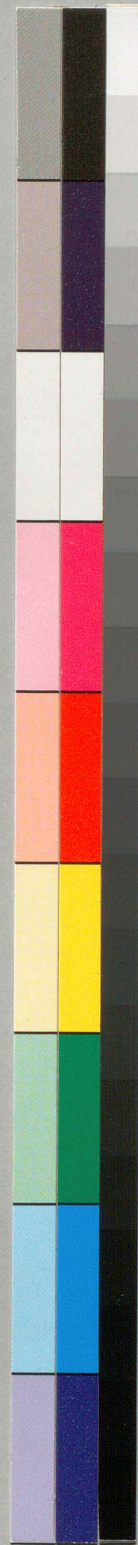
## 図書館活動

この週の目的は、各自が文献・資料を図書館の中で探索するのを促進することにある。入学時の図書館についてのオリエンテーションをよく思い出してほしい。そして、まず開架になっている部分を隅から隅まで一度は歩いてみて、棚の上から下まで目を通すことを勧める。数字による本の分類方法を知るだけでなく、哲学関係がどの辺に、美術関係がどの辺に、という具合に本学図書館の地理を覚えてしまおう。次に参考図書室の部分についても同じことを行い、百科事典、言葉の辞書、専門の辞書、年鑑、文献要旨の類がどの辺にあるかも覚えておこう。これは帯出が出来ないものであるが、自分が必要な時に誰かが図書館内で使用していることがあるので、一度は見ておいたほうがよい。

次にカードで素早く検索する方法を実習してみよう。ただし、日本でも欧米でも、カードのかわりにコンピューターだけで検索するところが増えている。本学でも、平成2年度からコンピューターを使ったLOOKS/Uというシステムが利用できるようになった。利用者用の端末機が2階の目録室（本の貸出と返却を頼むカウンターの前）にあるので、ぜひ慣れておこう。本学の本がすべてこのシステムで検索できるようになるには時間がかかるが、これからはこうした方式を使いこなせないと、よその大学や図書館に行っても仕事にならなくなる。

このシステムのためにも、また、わが大学にない文献を図書館を通じて他の機関から借りてもらうためにも、また、レポートや卒論を書くためにも、読みたい単庫本や雑誌論文の記録をしっかり作る習慣をつけておこう。たとえば、「シバタという人の音楽史の本」といった曖昧な記録ではなく、柴田南雄：「西洋音楽の歴史（上）」東京；音楽之友社、昭和42（1967）、というように、著者の姓と名、書名、出版地、出版年を忘れないように。日本の本の場合は、東京に限って出版地を省略することがあるが、最近は東京以外の本も多いので確認すること。この本をお茶の水女子大学から借りようと思ったら、自分のノートにも請求番号「762.3/sh18/1」と、この本の配備部局である「図書館」と「音楽」の文字を記しておこう。雑誌論文の場合は、著者名、題名の他、雑誌名、巻号、発行年の他、始めと終わりの頁を忘れないこと。外国語の本や論文でも同じ情報が必要である。

なお、音や映像による情報を使う場合は、附属図書館の閲覧カウンターに申し出て視聴覚コーナーを利用するとよい。





平成12年度

コア科目

総合科目 総合コース

「心と体」

\*提出期限9/22 17:00

(A) テーマを通じての課題

課題	
----	--

(B) 個別課題 教官名〔 〕

課題	
----	--

学生氏名				学籍番号							
学年	学部	学科	講座・専攻								

お茶の水女子大学



## コア科目

## 「アジアのなかの日本」

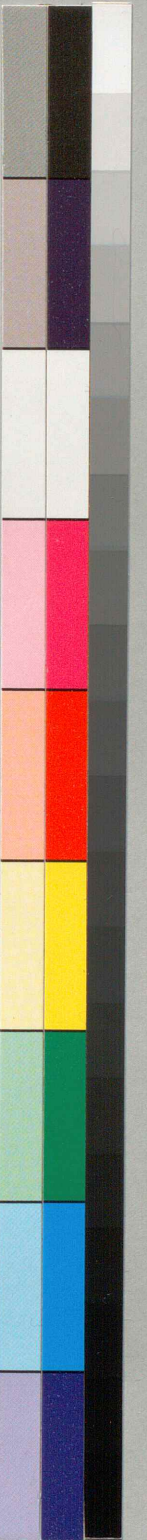
### (A) テーマを通じての課題

課 題	
-----	--

課 題	
-----	--

学生氏名				学籍番号						
学年	学部	学科	講座・専攻							

お茶の水女子大学





総合コース小論文

学部		学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題			担当講師名	

総合コース小論文

学部		学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題			担当講師名	

